学びて、感じて。
AIエアコン
Life & Air Conditioner
nocria ノクリア
富士通ゼネラル

かなスポ
☎045-227-0170 FAX045-227-0167
E-mail: sports@kanagawa-np.co.jp

青学大 采配ぴたり往路新

大本命 連覇厳しく

箱根駅伝

第96回東京箱根間往復大学駅伝競走は2日、東京・大手町から箱根町までの5区間、107・5キロに関東の20校がエントリーし、総合連覇を狙う東海大は4位にとどまった。青学大が5時間21分16秒の新記録で3年ぶり4度目の総合優勝を果たした。

青学大は1位に沈んだ。

本紀1面に。

国学院大が1分33秒差の2位に。3区で後退したが、4区で追い上げ、総合連覇を狙う東海大は1996年の第1回から100年の節目を迎えた。

往路をトップでゴールし喜ぶ青学大・飯田＝箱根町（花輪 久寿子）

東海大 4位

スピード 鳴り潜め

新記録、他大学も躍進

箱根駅伝往路の経過

1区 21.3キロ 創価大の水澤が終盤に国学院大の鈴木をかわし15秒差で1位。日体大が3位、総合連覇を狙う東海大は4位につけた。青学大は7位

2区 23.1キロ 青学大の1年生、岸本が6人を抜き1位に。早大、東海大、国学院大がそれぞれ1秒差で続く。東洋大は相沢が区間新記録の走りで7人を抜き7位に上がった

3区 21.4キロ 東京国際大のビンセント・イエゴンが区間記録を更新し8位から首位に浮上。青学大が1分21秒差で続き、国学院大が3位。駅大の中村主将、田沢が7人抜きで6位

4区 20.9キロ 青学大の吉田祐が区間新記録で2位から首位に再浮上。1分2秒差の2位に東京国際大、3位に国学院大がつけた。東海大が4位

5区 20.8キロ 青学大の飯田が快走してリードを広げた。国学院大は浦野が3位から2位に上がり、東京国際大が3位、東海大が4位につけた

【青学大区間記録】

区間	選手	名称	記録	区間順位
1区	吉田 圭太	法政③	1時間1分31秒	⑦⑦
2区	岸本 大紀	大東文化①	1時間7分3秒	⑤⑥
3区	鈴木 健人	駒澤④	1時間1分32秒	③⑥
4区	吉田 響	明治④	1時間0分30秒	①①
				=区間新
5区	飯田 貴之	愛知②	1時間10分40秒	②①
				=区間新

往路成績

区間	選手	名称	記録
①青学大	鈴木、吉田祐、岸本、飯田		5時間21分16秒=往路新
②国学院大	浦野	4	5時間22分49秒
③東京国際大	中村	4	5時間24分33秒
④東海大	塩澤	4	5時間24分38秒
⑤明治大	小澤	4	5時間27分11秒
⑥帝京大	中村	4	5時間27分15秒
⑦創価大	水澤	4	5時間27分34秒
⑧駒澤大	鈴木	4	5時間27分41秒
⑨早稲田大	中谷	4	5時間28分48秒
⑩拓殖大	中村	4	5時間29分8秒
⑪東洋大	相沢	4	5時間29分15秒
⑫中央学院大	大澤	4	5時間29分17秒
⑬中央大	吉田	4	5時間31分40秒
⑭順天堂大	中村	4	5時間31分52秒
⑮日体大	大澤	4	5時間32分53秒
⑯法政大	鈴木	4	5時間33分0秒
⑰神奈川大	大澤	4	5時間34分11秒
⑱日大	鈴木	4	5時間34分35秒
⑲筑波大	鈴木	4	5時間37分53秒
⑳国士舘大	鈴木	4	5時間38分37秒
関東学生連合	東海大は全員が区間7位以内のタイムをそろえた。		5時間34分54秒

（青学大は3年ぶり4度目の往路優勝。関東学生連合はオープン参加のため順位なし）

【経過】青学大はミスなくたすきをつないだ。1区の吉田圭が7位で滑り出すと、2区の岸本が6人を抜きトップに浮上。3区では一人分の2位に下がったが、4区の吉田祐が区間新の快走で首位を奪い返し、5区飯田も区間2位の好走だった。

1分33秒差でつけた国学院大は1区の鈴木が区間2位と健闘をつくった。東京国際大は3区でケニア出身のビンセント・イエゴンが区間最の区間記録を約2分更新する圧巻の走りを見せた。東海大は全員が区間7位以内のタイムをそろえた。

【区間1位記録】

▽1区（21.3キロ）
米澤怜（創価大）
1時間1分13秒

▽2区（23.1キロ）
相沢晃（東洋大）
1時間15分57秒=区間新

▽3区（21.4キロ）
ビンセント・イエゴン（東京国際大）
59分25秒=区間新

▽4区（20.9キロ）
吉田祐也（青学大）
1時間0分30秒=区間新

▽5区（20.8キロ）
宮下隼人（東洋大）
1時間10分25秒=区間新

東海大 4位

スピード 鳴り潜め

新記録、他大学も躍進

区間16位でつないだ筑波大・猿橋＝平塚中継所（須藤 望夢 写真も）

伝統校再び名刻む

26年ぶり出場 筑波大

猿橋「最高の時間」

26年ぶりに戻ってきた筑波大。沿道からの大声援で駆け上がる足音も、息づかいも聞こえる。「本当に最高の時間だった。平塚中継所に届けるまで、すべてが一瞬のようだった。自身も駅伝を走ったは柳光芳園高時代以来という。

それでも、前身の東京高師出身の金栗四三が開催に尽力した1920年の第1回大会優勝を皮切りに、61度目の出場となった伝統校。箱根への思いはどこにも負けない。

金栗の故郷熊本・玉名市に行って夏合宿ではゆかりの地を巡り、先人の思いに触れた。「金栗先生が築き上げたものを受け継いでいる自負はあると猿橋。だから、復活舞台で幸せで、感動した一終わらせるつもりはない。

「今回はみんなが初めてだが、経験をうまく活用できるチーム。来年はシード圏以上を狙いたい。令和のいちばんたちが再び大会史に名を刻んだ」（須藤 望夢 写真も）

気象、靴で好記録続出

元号が令和となって最初の箱根駅伝は好記録が続出した。1区から歴代1位に7秒と迫るタイムだった。往路5区間の合計では4チームが従来の最高記録より速かった。

スタート時の気温は6.9度。時間で風もあまり吹かず、気象条件に恵まれた。東海大の岡角監督は「総合的なものの向上」、青学大の原監督も「大学生のレベルが上がった」と話した。カーボンファイバーを使用した高反発をうたうナイキ社製の厚底シューズを履く選手が目立った。このモデルが世界を席巻してエチオピアのキプチョゲ選手が2時間1分39秒の世界記録を出すなど、大舞台からも速さが証明された。

「靴で全然変わってくる」と影響に言及した。

赤い鉢巻き 力に変え

教育実習先の千葉・印旛はじめ、全国トップクラスの生徒が選んでくれたこの3年間。個の強者と挑んだ4年間だ。昨年月の全日本大学駅伝の際には忘れていま語れない。一駅伝が大好きだ。憧れの箱根を4回も走れた。今年で終わりとなる。海岸線に出ると、声をかけてくれた。法政二高出身の中山中。法政二高出身の熱血ランナーは地元のプレス工業に通む。「神奈川」から落ち着いていた。今まで走れるのがうれしい。中学生の頃から良くしてもらってきたチーム。ニューイヤー駅伝で活躍したい。これから神奈川を熱くするつもりだ。（須藤 望夢、写真も）

順大 14位

橋本、最後の湘南路

イロ五輪3000メートル障害代表の塩尻和也（富士通）を

往路を4位でゴールした東海大・西田＝箱根町（花輪 久寿子）

越川「4年間、いい経験」

神大 17位

人会で通間前の練習でたという。

「4年間、やっと終わったな」と笑顔で。

左アキレス腱などを痛め、大後宗治監督55からはメンバー落ちを宣告された。最後のレースに出られない不安や葛藤を求められるプレッシャーに眠れない夜も過ごし、

ぎりぎりで間に合った。

大舞台、箱根の駅伝。

「ライバルたちの見えない背中を、ひたすら追い掛けた。

3区を託されたのは3度目。トップから5分近く離された19位でタスキを渡された。「いけるところまでガンガンいこう。そんな強気の思いは裏腹にスピードはなかなか上がらない。「区間賞以外は意味がない」と奮たはずが、まさかの区間17位に終わった。

懐かしの「花の2区」で見た光景は険しいものだった。19位でたすきを受けた法大の鎌田は「前のランナーが見えなくて苦しかった。「ライバルたちの見えない背中を、ひたすら追い掛けた。

ブレーキ。集団で格上の選手と競り合う事前プランは早々に崩れ「まず最終盤なので混乱してしまった」。鎌田自身も一つ順位を落とし、最後尾から時計に目を落とし、ペースをつかむ孤独の戦いを強いられた。

法政二高出身で、昨年は1年生で唯一メンバーに選ばれ8区で区間7位

苦しい表情を浮かべ駆け込む神奈川大の越川＝平塚中継所（須藤 望夢写真も）

花の2区で孤独の戦い

法大16位 鎌田、リベンジ誓う

エース区間の2区を力走した法大・鎌田＝平塚中継所

の力走、引き込みや筋力、ンバーで1万は最速タイ掲げた4年間シド選手権に出場した。「オレンジ軍団」の4年連続シード獲得に貢献。自分が走ったレースは想定通りに走れた。「前半は悪かったけど後半は自分の力を出せた。力を張る2年生に続くチャンスは十分ある。

「エースと言われる選手のように最初から突っ込んで粘り切れる選手になりたい。自分がチームを引っ張っていく。古豪の六期エースが接戦を来を誓った。

（松村 祐介、写真も）

総合4位以内を目標に掲げた今年は登録メンバーをマークし、エース区間を任された。

苦戦も「弱点」で好走

「期待度は高かったが、こんなものだったのかな」。往路17位に終わった神奈川大の大後監督は、

17位まで順位を巻き返したアンカー井手（右）＝箱根町

思わぬ苦戦に首をかしげた。

1区既方はトップと1分35秒差の12位でたすきをつなぐ、まずまずの滑り出し。だが2～4区は19位に沈んだ。指揮官は「設定タイム通りにいけず、（重要な）2、3区で乗り切れなかった。他の大学のような大エースがいないし、うちのエースをそこに置けなかったのも痛かった」。

それでも、例年は「弱点」だった5区で井手が区間6位と好走し、順位を二つ押し上げたのは好材料だ。3年ぶりのシード権獲得には他ラン状況だが、「悪い流れを断ちりるこことができた。よくやってくれた。明日はとにかく攻めたい」と、復路に向けて意気込んだ。（泉 光太郎、写真も）

国学院大2位

目標の総優勝に、あと一歩届かなかった。国学院大は力走したものの、青学大を捉えられずに2位。前田監督は「勝ちたかった。往路優勝という歴史に名前を刻みたかった」と悔しがった。

往路3位となった前田と同じく悔しがれて5区まで走り、この時点で青学大とは5分差。昨年区間記録をつくった5区の浦野に望みをかけたが、期待は高まった。序盤に差を詰めたところまでは狙い通り。しかし、先頭の背中が見えない焦りが出てしまった。区間3位と力走も目標一歩届かず

往路2位でゴールする国学院大の浦野＝箱根町

前往復大学駅伝観走

いる中の2位でうれしい」でもある。前田監督はそれはない。と責任を負ったことについて。5分の5区。今季は出雲全日本大学選抜駅伝を制覇、箱根の往路も歴代最高タイムで7位、3位以内を目標に、昨年から順位を一つ上げ、復路に挑む。

今年の人のの名出た」と奮闘した。悔しさは成長の糧に

東京国際大3位

1区 丹所、躍進に貢献

3年連続4度目の出場となった東京国際大は往路3位に躍進。予選会で1位通過し、新興勢力として注目されるチームの1区を担ったのは、神奈川大付高出身の1年生丹所だ。スタートから先頭集団で走り、13キロ近く後退したものの踏ん張り12位でつないだ。

往路3位で躍進した東京国際大の1区を任された丹所＝箱根町

湘南工大付高出身

2区除もじりじりと順位を上げ、ケニアム留学生の3ビンセントが「時間ぴりの驚異的な区間新記録の走りで7人を抜き7位に上がった

全国舞台に縁のなかった高校時代は「自分を追い込めない部分があった」という丹所は、大学でレベルの高い環境に身を置き急成長、1年目で箱根駅伝出場は「実力的にさすがにきついので、4年になってガを付けてこの走れる材にしたい」と話していた。チャンスは巡ってきた。

一1桁（順位）を狙っていたの悔しさはある。でも沿道の応援がすごく勇気をもらった。期待のルーキーが「3位という結果に大きな一歩を刻んだ」（細川 匠、写真も）

【駒大区間記録】

区	選手	名称	記録	区間順位
1区	中村 大堀④	一貴④	1時間2分7秒	⑨⑨
2区	山下 田沢	廉①	1時間8分18秒	⑬⑬
3区	小島 伊東	颯太③	1時間1分25秒	③⑥
4区	海斗③		1時間2分1秒	⑤⑥
5区	小島		1時間13分50秒	⑥⑥

駒大8位

1年生田沢7人抜き

駒大 ○一駒大の1年生、田沢が3区で区間2位と、初だけ3区で区間賞。「区間賞」を狙っていた。

「区間賞」を狙っていたのに、ペースが上がらない。「区間賞以外は意味がない」と奮たはずが、まさかの区間17位に終わった。

【創価大区間記録】

区	選手	名称	記録	区間順位
1区	米澤	4	1時間1分13秒	①①
2区	相沢	4	1時間7分57秒	①①
3区	ビンセント	4	59分25秒	①①
4区	吉田	4	1時間0分30秒	①①
5区	宮下	4	1時間10分25秒	①①

創価大7位

快走生かせず11位

創価大 ○一往路を2区で区間賞を獲得した。

1区に続いて1区で区間賞を獲得した。

2区に続いて1区で区間賞を獲得した。

3区に続いて1区で区間賞を獲得した。

4区に続いて1区で区間賞を獲得した。

5区に続いて1区で区間賞を獲得した。

【中大区間記録】

区	選手	名称	記録	区間順位
1区	千守	4	1時間3分27秒	⑩⑩
2区	川崎	4	1時間8分1秒	⑩⑩
3区	池田	4	1時間3分32秒	⑩⑩
4区	拓夢	4	1時間2分51秒	⑨⑨
5区	樹太郎	4	1時間12分49秒	⑨⑨

中大13位

区間賞取る思いで

劇優大・米沢怜の区間賞（1区）。絶対に区間賞を取ろうという強い思いを持って走った。やっぱり区間賞とは簡単ではない。自信になった。